

エコアクション21

環 境 経 営 レ ポ ー ト

調査期間 令和 4年4月1日～令和 5年3月31日



作成 令和 5年 7月10日

株 式 会 社 神 高

目 次

I. 組織の概要	P1~2
II. 対象範囲	P3
III. 環境経営方針	P4
IV. 環境目標	P5~6
V. 環境経営計画等	P7
VI. 令和4年度環境目標に対する実績	P8~9
VII. 令和4年度環境活動取組の評価	P10~11
VIII. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	P12
IX. 組織の状況分析表	P13
X. 代表者による全体の取り組み状況の評価及び見直し	P14

I. 組織の概要

会社名	株式会社 神高
代表者氏名	代表取締役 井上 英司
設立年月日	昭和31年8月10日
資本金	2,100万円
所在地	富山本社 (〒939-8214) 富山県富山市黒崎22-3 TEL 076-421-8641 FAX 076-421-6760 Email sinko01@aqua.ocn.ne.jp
	高山営業所 (〒506-0825) 岐阜県高山市石浦町3-490 TEL 0577-33-0369 FAX 0577-33-1706 Email sinko_02@aqua.ocn.ne.jp
	有峰事業所 (〒930-1458) 富山県富山市有峰26-31 TEL 076-481-1425 FAX 076-481-1425
建設業許可番号	上野資材置場 富山市上野11012-1 国土交通大臣許可(特-3)第448号
IS09001:2008	認証登録番号 68300 (初回登録 平成15年1月31日)
連絡先	環境管理責任者 堀井慎二 TEL 076-421-8641 FAX 076-421-6760 Email sinko01@aqua.ocn.ne.jp
認証・登録範囲	対象事業所 本社、高山営業所、有峰事業所、上野資材置場
	事業活動 建設業(土木工事、管工事、建築工事)

事業規模の推移

事業規模	単位	平成20年	平成21年	平成22年
売上高	百万円	414	319	403
従業員数	人	27	27	25

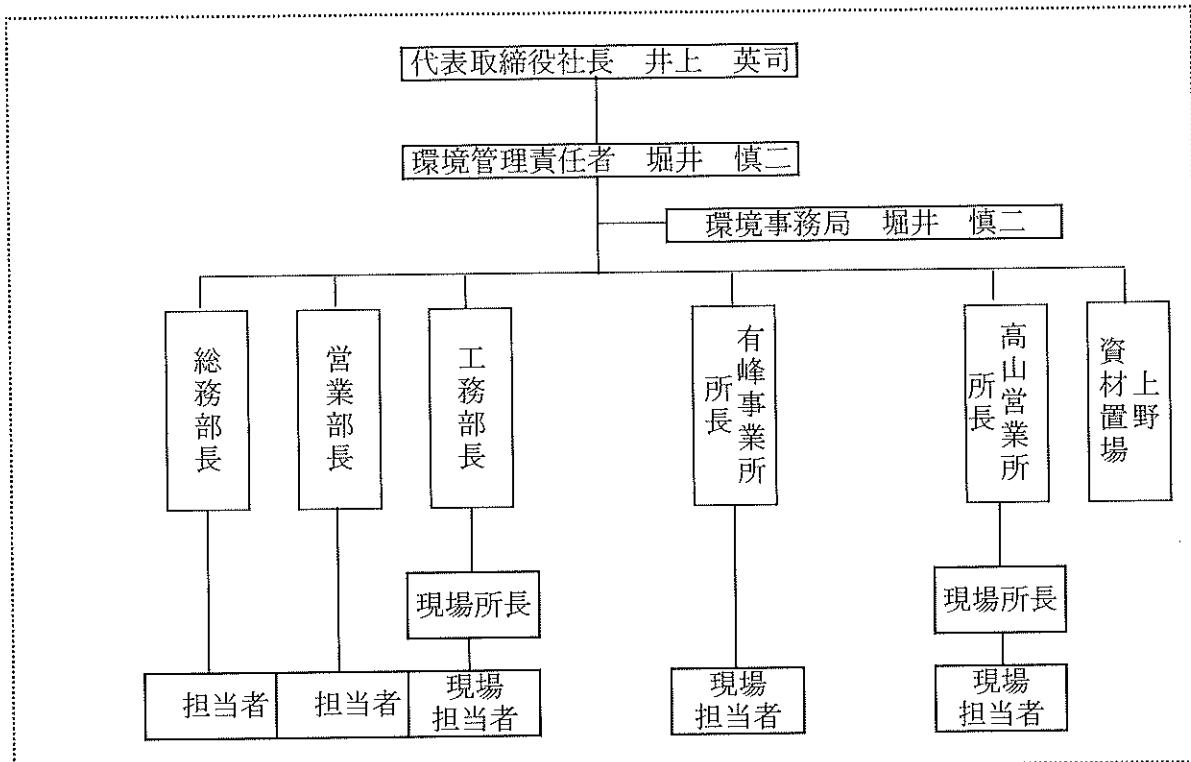
事業規模	単位	平成23年	平成24年	平成25年
売上高	百万円	275	405	273
従業員数	人	21	21	21

事業規模	単位	平成26年	平成27年	平成28年
売上高	百万円	375	485	435
従業員数	人	19	19	20

事業規模	単位	平成29年	平成30年	平成31年
売上高	百万円	538	689	591
従業員数	人	21	22	20

事業規模	単位	令和2年	令和3年	令和4年
売上高	百万円	598	592	549
従業員数	人	21	21	21

II. 対 象 範 囲



役割・責任・権限	
代表者 (社長)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施及び管理に関する資源の用意 ・環境経営方針の策定及び全体の評価・見直しと全従業員への周知 ・環境経営レポートの承認 ・環境目標の設定を承認
環境管理 責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築・実施・管理 ・法規制等の要求事項登録簿を承認 ・環境活動実施計画書を承認 ・環境活動の取り組み結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者、EA21推進会議の事務局 ・環境への負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・「環境関連法規等チェックリスト」の作成 ・環境目標・環境活動実施計画書の作成 ・環境活動実施計画の実績集計 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開（事務所に備え付けと地域事務局への送付）
部長・ 所長	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門における環境経営システムの実施 ・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境目標及び環境経営計画等の実施及び達成状況の報告 ・特管された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成、テスト、訓練、記録 ・自部門の問題の発見、是正、予防処置
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決定事項を守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

III. 環 境 経 営 方 針

1. 基本方針

「人と自然環境の調和」を理念に「社会インフラの整備」や「山林の保育事業」により、地球温暖化や環境保全活動に積極的に取り組み、持続可能な循環型社会を目指すため、以下の項目を忠実かつ継続的に取り組んでゆくことを誓約します。

2. 指 針

(1) 事業活動に係わる環境関連の法規、条例、及びその他の規制を遵守します。

(2) 環境負荷の低減や環境改善を図るため、次の事項に重点的に取り組みます。

- ① 地球温暖化防止のため、二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- ② 廃棄物の削減及び適正処理、リサイクルの推進に努めます。
- ③ 山林を保護・育成することにより二酸化炭素の吸収力の増大に努めます。
- ④ 水資源の保護と節水に努めます。
- ⑤ 化学物質の保管量について定期的に把握し適正管理に努めます。

(3) この環境経営方針は全従業員に周知します。

制定日 平成22年4月 4日
改定日 令和 3年9月28日

株式会社 井上英司

IV. 環 境 目 標

1. エネルギー別 温室効果ガス削減目標

年度	前年度までの 3か年平均	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度
削減数値	100%	99%	98%	97%	96%
電力 kg-co2 (kWh)	44,577 69,651	44,131 68,954	43,685 68,258	43,240 67,561	42,794 66,865
灯油 kg-co2 (ℓ)	8,747 3,513	8,660 3,478	8,572 3,443	8,485 3,408	8,397 3,372
ガソリン kg-co2 (ℓ)	47,286 20,382	46,813 20,178	46,340 19,974	45,867 19,771	45,395 19,567
軽油 kg-co2 (ℓ)	127,700 49,496	126,423 49,001	125,146 48,506	123,869 48,011	122,592 47,516
温室ガス計 (kg-co2)	228,310	226,027	223,744	221,461	219,178

※1. 電力のCO2排出係数は、0.64kg-co2/kWhにて計算

2. 抱点別 温室効果ガス削減目標

年度	前年度までの 3か年平均	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度
削減数値	100%	99%	98%	97%	96%
富山	19,268	19,075	18,883	18,690	18,497
高山	10,194	10,092	9,990	9,888	9,786
有峰	9,056	8,966	8,875	8,784	8,694
現場	189,792	187,894	185,997	184,098	182,200
温室ガス計 (kg-co2)	228,310	226,027	223,744	221,461	219,178

3. 廃棄物削減目標

年度	前年度までの 3か年平均	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度
削減数値	100%	99%	98%	97%	96%
一般廃棄物 Kg	310	307	304	301	298
コピー用紙使 用量 Kg	214	212	210	208	205
建設系産業廃 棄物	100%リサイクル	100%リサイクル	100%リサイクル	100%リサイクル	100%リサイクル

4. 上水道使用量の削減目標

年度	前年度までの 3か年平均	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度
削減数値	100%	99%	98%	97%	96%
上水道 (m ³)	193	191	189	187	185

5. 山林保育事業への取組

幼木保護のため下草刈りを行う。
當時、漏油対策として、吸着マットと中和剤を携行する。

6. 化学物質の管理

化学物質の管理については、使用量の把握及び適正管理を行う。

V. 環 境 経 営 計 画 等

令和 4 年度以降の環境経営計画等	
温室ガス (二酸化炭素) 排出量の削減	購入電力の削減 不要照明の消灯 ウォームビズ・クールビズの着用 エアコン温度の管理 (暖 25 度・冷 25 度) こまめなスイッチのON・OFF LED照明への切り替え ノー残業デーの推進
	自動車・建設機械使用燃料の削減 始業時における短時間のアイドリング 発進時におけるエコ運転の遵守 適正な空気圧での走行及び定期自主点検の実施 駐停車時、作業中断時のこまめなエンジンストップ 作業に見合ったエンジン回転数の選択 運搬ルート最短距離の計画 配置車両台数の適正化 積載重量の厳守
	暖房機燃料の削減 適正温度の厳守 使用時間の厳守 現場事務所外出時の消火の徹底
	一般廃棄物排出量の削減 一般ゴミの削減 (私的ゴミの持ち帰り) 分別による資源化への促進 最終処分量の削減 問題の見える化
	紙類使用量の削減 書類の簡素化を推進 使用済み用紙の裏面使用 古紙のリサイクル化 段ボールのリサイクル化
	建設系廃棄物の適正処理 マニュフェストの発行・回収の適正な管理 アスファルト・コンクリート殻の再利用 産業廃棄物の削減と分別回収の促進
	上水道使用量の削減 節水の意識付け 急激な開閉防止による設備負担への軽減
	山林の保護・育成 原生木幼木の保護 漏油対策の徹底
	化学物質の適正管理 保管数量の把握と整理・整頓 危険物の指定数量 1/5 以下の厳守

VI. 令和4年度環境目標に対する実績

1. エネルギー別 温室ガス排出量比較

年度目標 と実績	令和4年度目標	令和4年度実績	増減比	結果判定
電力 (kWh)	68,954	66,640	3%削減	○
灯油 (ℓ)	3,478	2,595	25%削減	○
ガソリン (ℓ)	20,178	22,697	12%増加	×
軽油 (ℓ)	49,001	84,640	73%増加	×
温室ガス計 (kg-co2)	226,027	320,140	42%増加	×

2. 拠点別 温室ガス排出量比較

年度目標 と実績	令和4年度目標	令和4年度実績	増減比	結果判定
富山	19,075	17,611	7.6%削減	○
高山	10,092	10,117	0.2%増加	×
有峰	8,966	7,285	18.7%削減	○
現場	187,894	285,127	51.7%増加	×
温室ガス計 (kg-co2)	226,027	320,140	41.6%増加	×

3. 廃棄物排出量

年度目標 と実績	令和4年度目標	令和4年度実績	増減比	結果判定
一般廃棄物 (Kg)	307	588	92%増加	×
コピー用紙 使用量(Kg)	212	253	19%増加	×
建設系産業 廃棄物(t)		727	リサイクル率100%	○

4. 水資源投入量

年度目標 と実績	令和4年度目標	令和4年度実績	増減比	結果判定
上水道 (m ³)	191	133	30%削減	○

5. 山林保育の実績

常時、吸着マットと中和剤を携行し、幼木保護のため下草刈りを行った。

6. 化学物質の管理

化学物質の使用なし。

VII. 令和4年度 環境活動取組の評価

対比判定 平成31年4月～令和4年3月の平均 : 令和4年4月～令和5年3月

1. 温室ガス排出量について

昨年の18%増より更に増して、今回は総合で42%増加という結果であった。

以下に項目ごとに検証する。

2. 拠点別温室ガス排出量について

本店である富山管内では目標を7.6%削減の17,611kg-CO₂となった。数年前までの実績とみて確実に減少していることは評価できるものと考えている。各項目とも昨年度と大きな変化もなく、寄宿舎の関係か購入電力は下がっていることを含め活動を維持したい。

高山営業所では目標値を0.2%微増の10,117kg-CO₂であった。続いている遠方業務で事務所での業務が少なくなったことで購入電力量が抑えられた。加えて作業員が詰所に常駐する機会も減ったため、灯油は抑えられたが、ガソリンの使用量は増えた。細かな外出が影響している。

有峰事業所では目標を1,681kg-CO₂減少させ7,285kg-CO₂の18.7%削減させた。開設期間は毎年同じで影響を感じないが、富山とも目標をクリアした事業所である。昨年より大きく減少させたことに相当の努力を感じる。

最も影響が大きい現場においては目標を大きく上回る285,127kg-CO₂となった。51.7%増である。一年を通じ重機や発電機に使用した軽油が増えたことがもっぱらの原因であるが、電力や灯油が減っている中でエネルギーの主要種別が変わっただけの矛盾も感じている。

全体の温室ガス排出が目標を4.2%超過したことは想定内としている。経済的努力も十分行ってきた。今年を境に環境負荷に対する管理手法を改め提言するつもりである。

3. 廃棄物排出量について

産業廃棄物合計は100%リサイクルとなるため除外している。一般廃棄物も紙類廃棄物は前年度より大幅に増加した。目標値から92%増加という不本意な結果だが、完全電子化にならない要因は別にあるようだ。下表は前年比である。

	令和3年度	令和4年度	増減	増減率
一般廃棄物(Kg)	180	588	408	226.7%
コピー用紙使用量(Kg)	134	253	119	88.8%
建設系産業廃棄物(t)	514	727	リサイクル率100%	

4. 水資源投入量について

水使用量は目標値を30%削減できた。社屋を離れ遠方の現場が多かったことが主な要因と思われる。今後も節水意識はしっかりと継続したい。

5. 山林保育について

漏油対策を取りながら、幼木保護するために下草刈りをした。

6. 化学物質の保管量の把握について

化学物質の使用実績は今回無い。

総評

総合で目標値を42%も増加したことはとても残念に思う。昨年にも増しての結果には現場の影響が最も大きく、言ってみれば現場種別によりどのようにも結果が変わる。確かに数値で表することで環境負荷に対する意識も冴えたはずであったが、現在感じるのは単なるマンネリばかりではない、必要性が変わったのである。

環境負荷の低減、快適な職場環境の形成のため管理手法を提言していく。

VIII. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

環境関連法規制の遵守状況について確認したところ、法規制の違反はありませんでした。また、過去3年間関連機関及び地元住民からの訴訟やクレームも有りませんでした。

法規の名称	該当する要求事項	評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	処分委託先・収集運搬の契約締結、契約書の保管	○
	産業廃棄物管理票の交付、回収、照合、保管	○
	産業廃棄物管理票交付状況報告書の提出	○
	産業廃棄物処理計画書・実施書の提出	○
	委託した廃棄物の処理状況の確認	○
建設工事に係る資材の再資源化に関する法律	500万円以上の土木工事他において解体時の再資源化	○
	分別解体等の計画書の提出	○
包装容器リサイクル法	市町村が定めた基準に従い、適正な分別排出	○
家電リサイクル法	小売店へ料金を支払い引き渡し処理	○
自動車リサイクル法	使用済み自動車を業者へ引き渡し処理	○
	リサイクル費用の支払い	○
フロン排出抑制法	フロン類の大気中への排出を抑制	○
資源有効利用促進法	再生資源利用(促進)計画書、実施書の提出	○
大気汚染防止法	特定粉塵等排出実施届出書の提出	該当なし
騒音規制法	特定建設作業の実施の届出	該当なし
富山市公害防止条例	特定建設作業の実施の届出	該当なし
振動規制法	特定建設作業の実施の届出	該当なし
消防法	少量危険物の貯蔵・取扱の基準	○

組織の状況分析表

当社の密接な利害関係者：
顧客(官庁、民間発注者、元請施工事業者)、近隣住民、
施工現場に関連する漁協、農協など団体

承認	作成
/ /	2023/4/26

組織の状況の理解(4.1)		リスク・機会の対応					定期的 有効性評価 (有効・要改善)		
内部の状況		外部の状況		組織のリスク・機会(6.1)		優先度	取組みの計画(6.2)		
強み(Strengths)		機会(Opportunities)		高	中	低	目標設定	システム反映	今後の課題
※人材、機械・設備、材料・部品、技術・ノウハウ、販路、協力会社・パートナー等の観点で分析		Politics 法規・官庁の要求	総合評価方式の入札制度が普及 ・工事成績が高い業者が入札に有利 ・優良表彰獲得が入札に有利	・工事成績が営業に大きく影響する	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
・技術力機動力がある ・長年の豊富な施工実績がある ・NETISの新技術に積極的にチャレンジしている ・TS出来形SITE-Scopeを導入している ・安定した協力会社に恵まれている		Economy 経済・業界の状況	・将来的には人口減で公共工事の発注が先細りになる可能性がある ・民間投資は景気に左右されやすい	・優良表彰獲得が営業に大きく影響する	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
	Society 市場のニーズ・利害関係者の要求(4.2)	【顧客】 ・工事成績の高い施工物 ・創意工夫、地域貢献などの付加価値のある施工	・NETIS(新技術)の活用が評価される ・創意工夫、地域貢献が工事評定点アップに貢献する	・施工後の経験の社内共有により、さらに全体のレベルアップにつながる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
	Technology 技術	・新技術NETISが評価される ・国交省がICT技術を推奨し、コンステラクションを推進している	・Landeco for TSなど新技術に対応しないと同業他社に後れを取る ・ドローン導入に対応することで、技術提案として高く評価される可能性がある	・Landeco for TSなど新技術に対応しないと同業他社に後れを取る ・ドローン導入に対応することで、技術提案として高く評価される可能性がある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
弱み(Weaknesses)		脅威(Threats)							
※人材、機械・設備、材料・部品、技術・ノウハウ、販路、協力会社・パートナー等の観点で分析		Politics 法規・官庁の要求	・総合評価方式の入札制度が普及している ・同地域で表彰を継続的に受賞している競合先があり、基礎点upが課題	・方針、目標の浸透の取組みを強化しないと、QMSのパフォーマンスが向上しない ・創意工夫、地域貢献のツツバツの蓄積をしないと全社的な工事成績アップにならない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
・技術者不足 ・人材育成の仕組みが弱い ・仕事が属人的になっている ・従業員の高齢化 ・課題を管理職は理解しているが全社的な共有に至っていない ・施工経験や知識が個人のものになっていて、組織で共有されていない		Economy 経済・業界の状況	・団塊世代の定年 ・少子高齢化 ・職人不足、人材不足	・創意工夫、地域貢献のアイディア出しが、各現場での難点になっている ・技術継承を計画的に行わないと、将来的な品質低下につながる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
	Society 市場のニーズ・利害関係者の要求(4.2)	【近隣住民】 ・騒音、振動、粉じんの抑制 ・安全確保 ・道路規制、施工期間など情報開示 【漁協、農協】 ・河川、用水などの汚染の防止 ・仕事に支障の無いようにしてほしい	・近隣への挨拶ができていないと苦情が発生する ・部内会議での施工事例の早期情報共有が、工事成績アップにつながる	・近隣への挨拶ができていないと苦情が発生する ・計画的な設備投資をしないと、同業他社に後れを取る	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
	Technology 技術	・GPS活用などの新技術の設備は高価			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		

代表者による全体の評価と見直し記録

(適切性、妥当性、有効性の確認)

作成日：令和5年7月10日

見直しに必要な情報		変更の必要性の有無・指示事項
(入力情報：環境管理責任者の報告)		(代表者)
[取り組み状況の評価結果] ①環境関連法規制等の順守状況 現在評価した結果順守されている ②是正及び予防処置の状況 ・新体制で進めるも特に変更ない。 ・毎月の工程会議で役割分担をよりわかり易くする ③前回までの代表者の指示事項の対応 ・	[環境方針] 管理項目の見直しにより、より運転しやすいものになってきた。	[環境方針] 方針は当社の業務に必要とし掲げたものであり、今後も継続する。
[目標・環境活動計画の達成状況] 環境活動計画書による 電力の削減 × 灯油の削減 × ガソリンの削減 × 軽油の削減 ○ 水の削減 ○ 廃棄物の削減 ○ LED照明への切替 本社事務所普及率97% LED照明への切替 営業所 普及率98%	[目標・環境活動計画] 新基準によりデータの比較が鮮明に理解できるようになったが、現場に左右され検証しづらいこともあり問題を感じる。	変更の必要性： 有 (無) [目標・環境活動計画] 過去3カ年平均値より毎年1%加算した削減目標とする。
[周囲の変化状況] ①外部情報 SDGs, BCP等の取組が評価されている ②環境関連法規制等の動向他 特になし	[その他の環境経営システムの各要素] タイミングを見て投資を要する。	変更の必要性： 有 (無) [実施体制] 働き方改革を進め休日が増加したがシステム自体に特段の変更はない。 さらに情報収集を行う。
		変更の必要性： 有 (無)